

猫免疫不全ウイルス感染症（猫エイズ/FIV）とは

感染経路は主に、けんかなどの咬傷です。**屋外に出る子は特に感染リスクが高いです。**

ウイルスは感染猫の唾液や血液、精液、乳汁中に存在しますが、ねこちゃん同士のグルーミング、食器の共有等での感染は少ないと考えられています。

また、ネコ科動物に特異的なウイルスなので人やわんちゃんには感染しません。

《診断》

採血をして抗体検査を行うことで感染が分かります。

- 感染後1~2か月後に抗体が作られるため、リスクの高い行動があった日から1~2ヶ月後に検査を行う。
 - 母猫が陽性の場合、子猫は生後6か月以降で検査を行う。（母猫の感染状況が不明で6か月齢未満で検査を行い陽性だった場合、6か月齢以降で再検査）
- といった注意点があります。

《症状》

感染した直後は特異的な症状は無く、発熱・下痢・リンパ節の腫れなどが見られることがあります。

免疫不全のステージになると以下の症状が見られます。

- リンパ節の腫れ
- 歯肉口内炎
- 日和見感染（皮膚真菌症、寄生虫など）
- 体重減少
- 貧血
- リンパ腫



《治療》

根本的な治療は無く、状態に応じた対症療法が中心となります。

◆ インターフェロン治療（注射）

感染初期は、ウイルス感染をした細胞とまだ感染を受けていない細胞とがあります。

インターフェロンはまだ感染を受けていない細胞を抗ウイルス状態にし、感染を受けてもウイルスの増殖を防ぎ、ウイルスの消滅を期待するものです。

ウイルスに対して直接働くお薬ではないものの感染初期であれば効きやすいとされています。

3~5日間連日投与が一般的です。

◆ 点滴、抗菌剤投与など

免疫不全により細菌感染を許容しやすい状態になっています。特にヘルペスウイルスやカリシウイルスに混合感染すると重症化しやすくなります。

抗菌剤で感染を抑えたり、点滴で脱水を改善し、一般状態を維持します。

無症候キャリア期が長く、症状が出るまでは数年~10年前後かかることがあり、**寿命に関わりにくいとされています。**無症候キャリア期は普通の猫ちゃんと同じように生活できます。

ストレスが発症に関わるとされていますので、ストレスの少ない住環境や、バランスの取れた栄養管理などの心掛けが大切です。